

# 実績報告会

## 京都府の取り組み

2012年6月26日（火）

高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

国立障害者リハビリテーションセンター

京都府リハビリテーション支援センター

高次脳機能障害支援コーディネーター

杉森 悟子

# 内容

1. 京都府の特徴
2. 高次脳機能障害支援について
3. 日中活動に関する支援
4. 課題と今後の支援体制

# 1. 京都府の特徴

～京都府リハビリテーション支援センターの活動～

# 京都府(地図)



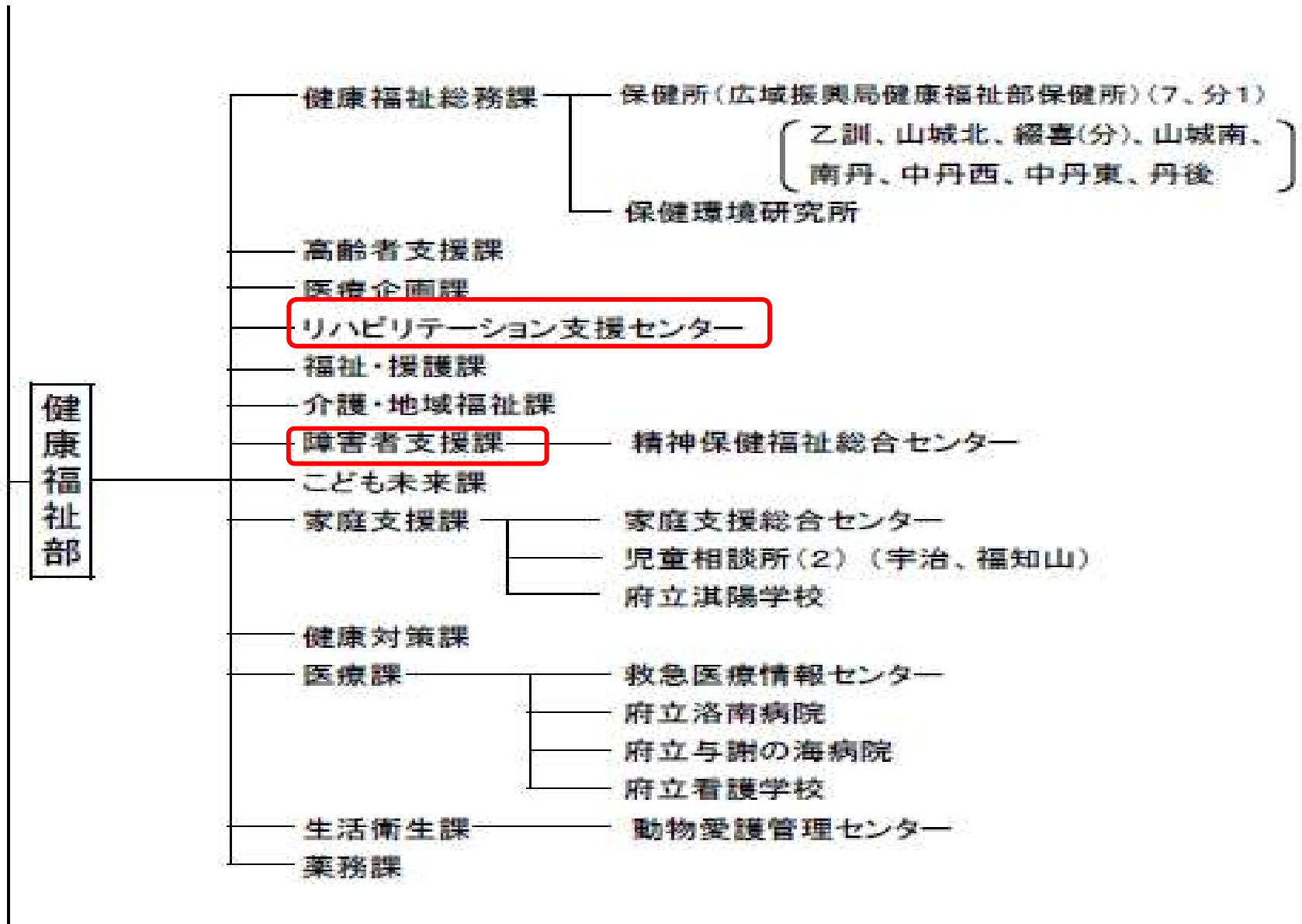
面積 4,612.71 km<sup>2</sup> (全国第 31 位)  
・面積のうち

人口 260万人 (全国第 13 位)  
・うち京都市内 147万人

# 京都府リハビリテーション支援センター



# 京都府リハビリテーション支援センター



# 京都府リハビリテーション支援センターの事業

## 人材の確保・育成

リハビリテーション従事者の確保、地域間の偏在の解消により、府内全域において、適時適切なリハビリテーションが受けられる体制の充実を図ります

## 施設の充実

地域リハビリテーション支援センターの機能訓練室等の整備、訪問リハビリテーション事業所の立ち上げ支援、回復期リハビリテーション病棟の増床により、地域のリハビリテーション施設の充実を図ります

## 連携体制システム

地域リハビリテーションコーディネーターの配置、地域連携パスのIT化により、急性期から回復期、維持・生活期まで一貫した総合的なリハビリテーションサービスの提供を図ります

# 京都府リハビリテーション支援センターの事業

## ➤ 各研修会の開催

- リハビリテーション看護職・介護職ステップアップ研修
- リハビリテーション専門職研修
- 機能訓練指導員等研修会
- リハビリテーション行政職研修会
- 摂食・嚥下等障害対応支援研修
- 総合リハセミナー、専門職、行政職員向け研修
- 専門職受入研修
- 北部専門職技術向上研修
- 高次脳機能障害支援研修

## ➤ 巡回・訪問等事業

- リハビリテーション巡回相談指導
- 摂食・嚥下等障害対応支援訪問相談

## ➤ 理学療法士等修学資金貸与事業

## ➤ リハビリテーション就業フェアの開催

## ➤ 訪問リハビリテーション事業所整備促進事業

## ➤ 回復期リハビリテーション病床整備促進事業

## ➤ クリティカルパスⅠ・T活用病診連携推進事業

## ➤ 高次脳機能障害支援普及事業



## 2. 高次脳機能障害支援体制

～京都府の現状～

# 高次脳機能障害支援事業

## 1. 支援拠点における支援事業

支援コーディネーター2名(平成23年度まで)

※非常勤嘱託職員 週24時間1名、週16時間1名:臨床心理士

支援コーディネーター3名(平成24年6月以降)

※常勤職員:臨床心理士

嘱託職員 週24時間1名:臨床心理士

週16時間1名:精神保健福祉士

(1)高次脳機能障害に関する相談業務等

①相談等対応

②家族教室、グループワークへの参加協力

## 2. 支援手法等に関する研修の開催

(1)研修会の開催

(2)各圏域等で開催される連絡会議等への出席

## 3. 情報提供・普及啓発

(1)講演会等への参加・協力

(2)インターネット、府民だよりによる情報発信

## 4. 支援ネットワーク会議の開催

京都府内での支援機関同士の顔の見えるつながり作り

# 相談件数の推移

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
電話相談	延べ件数	282件	263件	313件	523件
	実数	146件	152件	175件	174件
	新規件数	128件	138件	156件	161件
来所相談	延べ件数	17件	13件	41件	40件
同行支援等	延べ件数	11件	15件	28件	38件

# 相談への対応

- 助言

- \* 障害理解のための助言・具体的な対応

- 情報提供

- \* 福祉施策や利用できるサービス等について

- 医療機関の案内

- \* 診断書・リハビリ・セカンドオピニオンの希望

- 他機関紹介・連携

- \* Coを介して他機関につなげる。

- \* 他機関と情報共有、連携しながら支援を行う。

- 来所相談

- \* 必要に応じて、実際に当事者やご家族とお会いし、支援の希望や、困りごとをお話しいただく。

- \* すでにつながっている関係機関との共通理解を測ったり、方向性の確認が必要な場合等 来所で相談を聞く。

### 3. 日中活動支援の1例

# 事例概要

これまで

相談時の状況

希望や目標

## ★発症時期

平成7年

## ★原因疾患

脳血管疾患(くも膜下出血)

## ★生活歴

- ・発症後医療リハを受ける
- ・身体障害者手帳を申請し、障害者雇用枠で就職
- ・生活面については、実母によって管理されていた。
- ・平成22年 実母が自宅にて死亡
- ・職場への遅刻が多くなり、職場からジョブコーチ支援の依頼があるが退職となり、自宅で過ごしている。

## ★相談目的

- ・就労支援(本人)
- ・就労、障害への対応(家族)

## ★医療機関の受診

かかりつけの内科

## ★高次脳診断

なし

## ★家族・本人の障害理解

不十分

## ★手帳等

- ・要介護1(介護保険)
- ・身体障害者手帳2種3級

## ★利用しているサービス

- ・訪問介護事業所  
(ヘルパー週2回 買い物・調理)

## ★長期目標

- ・日常生活の安定
- ・社会参加の継続

## ★必要な支援等

- ①適切な評価、診断  
⇒医療機関の紹介
- ②必要あれば精神障害者保健福祉手帳の申請
- ③生活リズム作りのために日中活動支援  
⇒障害者地域生活支援センターの紹介
- ④情報の集約  
⇒ジョブコーチからの情報収集  
⇒各関係機関間のネットワーク作り

# 支援内容

## ①適切な評価、診断

京都府立医科大学附属病院神経内科  
高次脳機能障害専門外来 を紹介

⇒ 投薬 生活指導 家族フォロー 手帳申請(②)

## ③生活リズム作りのために日中活動支援

障害者地域生活支援センターを紹介、対応について助言

⇒ 受診同行 情報収集 当事者との定期面接

⇒ 就労継続B型事業所を紹介(週4回1時間の通所)

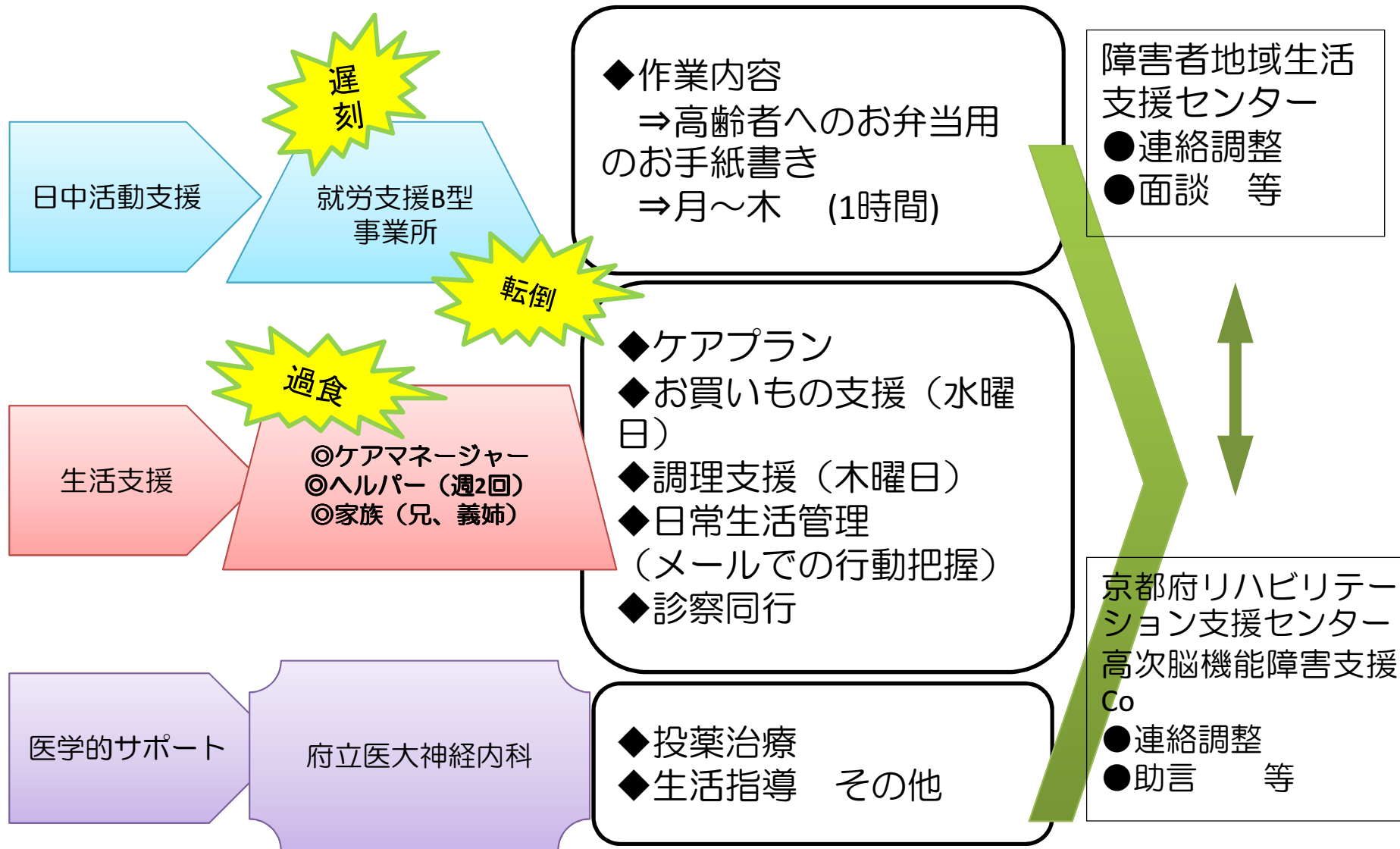
⇒ ジョブコーチからの情報収集(④)

## ④情報の集約

各支援関係者との定期的な情報交換の場の設定

⇒ 関係機関同士のネットワーク作り

# 他機関との連携





# 事例の課題

★**転倒** : 移動時の付き添いが無い。場面に応じた対応が難しく、目の前の刺激に反応してしまい転倒する。

★**遅刻** : 時間の見通しが持てず、時間の組み立てが困難だが、適切な行動が定着するまでの支援が無い。

★**過食** : ストックの食事の管理が困難であることが発覚、体重増加。

①調理・買い物のヘルパー利用の目標設定が現状とマッチしていなかった。

②セールののぼりに反応しスーパーで菓子パンをたくさん買い、一気におやつに...

③家族や支援関係者からの介入へのストレス???

★**家族関係** : <管理する> - <される>の関係になりがち

# 事例を通しての支援体制課題

【1】生活機能の回復の場が少ない

【2】生活場面の環境調整は、家族やヘルパーだけでは限界がある

【3】適切な行動が定着するまでの支援が必要

【4】日々当事者「管理」に奮闘する家族の受け皿が少ない

# 京都府高次脳機能障害支援プラン

【1】生活機能の回復の場が少ない

⇒生活訓練の場の整備

⇒生活訓練事業所の設置促進

【2】【3】生活場面での適切な行動が定着するまでの支援

⇒訪問支援者養成の準備

【4】日々当事者「管理」に奮闘する家族の受け皿が少ない

⇒家族会への支援

# まとめ

- 訪問支援者を活用することで、家族の負担を軽減し、ヘルパーをより有効に利用することができる。また、より日常生活に密着し、かつ、高次脳機能障害に特化した支援を提供することができる。
- 生活面の安定を図り、適切な行動が定着することによって、安定した社会参加を維持できると考える。
- 生活訓練事業所や、京都府内の支援体制を整備していくことによって、日中活動や社会参加の継続が難しい当事者も、訓練をやり直せるシステムづくりを今後進めていく。

ご清聴ありがとうございました。